

2010年（平成22年）3月27日（土） No. 24号

K-PUROニュース

【事業所】

■社名	株式会社 ケイプロ	http://www.k-puro.co.jp
■屋号	都市防犯プランニング社	e-mail info@k-puro.co.jp
■本社	埼玉県川口市芝塚原 2-3-11 エステートミア	TEL 048-261-3412
■千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

【業務内容】

■機械警備事業	ALSOK・SECOMを使用した弊社独自のセキュリティプランニング
■防犯カメラ事業	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
■建物総合メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 設置に至るまで全てのメンテナンス業務の取扱い

【加盟団体】

■川口モーニングロータリークラブ(RI2770 地区)	http://blog.goo.ne.jp/morning_2770
■(NPO)さいたま起業家協議会	http://www.saitama-soho.com/
■(社)千葉東法人会青年部	http://www.chibahojin.jp/
■(NPO)日本危機管理学総研	http://www.kikikanri.jp/gathering.html/
■(財)モラロジー研究所	http://www.moralogy.jp/
■浦和北親会	

【協賛応援団体】

■はやくレスリングプロダクション	DREAMERS http://blog.livedoor.jp/wdream1/
2010年(平成22年)5月29日(土) WRESTLING DREAMERS 6人タッグイルミネーションマッチ	
新木場1st RING 開場 18:00 試合開始 19:00 リングマット赤コーナーへ K-PURO 広告掲載!	



ご挨拶

暖寒が交互にやってくるこの季節、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

さて、防犯カメラはここ数年、目を見張る勢いで普及してきました。

特に分譲マンションにおいては平成15年から平成20年ごろにかけて8割方に導入された見込みです。

住宅侵入窃盗は平成14年をピークに年々減少傾向にあります。その中でも「戸建住宅・共同住宅3F以下・共同住宅4F以上」の種類別において侵入割合を比較してみますと、戸建住宅への侵入割合が33.6%から37.1%と3.5ポイント増加しています。

このことはマンションへ防犯カメラの普及が進んだことにより、犯罪企図者がマンションを避け、戸建住宅へ侵入対象先をシフトしていることが数字からも伺えます。(平成15年および平成19年比較)

防犯カメラは犯罪企図者にとって「有益ではない、効果がない」という専門家の方もいらっしゃいますが、それは全くもって詭弁であり、侵入窃盗の犯罪を抑止する効果のほか、痴漢・自転車盗・各種イタズラ行為・内部不正の防止・不法投棄や器物損壊の事実確認により占有者の方々へ確実に有益な効果をもたらしていることをここに書面を借りてお伝え申し上げます。

代表取締役 木戸良樹

アサヒビール(株) 名誉顧問 中條 高德 様

3月17日(水)千葉市中央区倫理法人会主催の10周年記念特別講演の講師として、致知出版でもおなじみのアサヒビール名誉顧問の中條高德様が講演されると聞き受講してきました。

私たちの教わった近代日本史は学校でも流す程度で終わっていたことから深くを知りえませんでした。最近、私なりに戦後、教育勅語の教えが淘汰されたことやアメリカナイズされた日本の現状に疑問を感じているため、戦争体験者の方の真摯な話は真実を知りえるためにはとても貴重なものでした。

～以下講演内容抜粋～

アメリカの巧妙な押し付けにより封印されてきた日本の近代史。

日本は先の大戦に敗れてからすでに65年。

その間、想像もできないほどのどん底から立ち上がり、奇跡のように世界の経済大国になり得ることができた。

世界の人々が驚くほどの蘇りなのに、生まれた自分の国に誇りを持ち得ない人があまりに多く、その国民が選択した新政権も大きく揺れている。



凍りつかない港を求めてアジアを南下してきた大国ソ連との日露戦争での勝利。

欧米諸国が日本のみを植民地化できなかったことは先祖の多大な功績にある。

日本は法律がなくとも秩序を守れる世界で唯一の民族であった。

「先祖に、子孫に、近隣に、お天道様に」と、恥を知る文化が浸透していたおかげである。

そして戦後の経済発展により豊かさを得た。

しかし、人類は目指している豊かさにたどり着くと、反対にどんどんエネルギーが弱くなっていく。

国家の役割は、「領土の保全・国民の命を守る・債権の保全」の3つであるが、現在は全く国家が崩れてきている。今ここで、日本人が一丸となって立ち上がらなければ、ローマ帝国やマヤ文明のように本当に日本が滅びてしまう恐れが目の前にきている。

最後に、世界の歴史が説く民族滅亡の3原則を享受。

- 一・理想(夢)を喪った民族
- 一・全ての価値をもので捉え、心の価値を見失った民族
- 一・自国の歴史を忘れた民族

■推薦著書

「孫からの質問状」おじいちゃん戦争のことを教えて 致知出版社 1,400円

ニューヨークの高校に通う孫娘から分厚い手紙が届いた。孫は歴史の授業で、太平洋戦争を勉強することになったという。手紙は戦争を体験した祖父への質問状であった。

孫娘の真摯な問いと、軍人を志した祖父の誇り高き応え。



【中條高德様 プロフィール】

昭和2年(1927年)生まれ 長野県千曲市出身

陸軍士官学校(第60期)、旧制松本高校を経て学習院大学卒業後、アサヒビールに入社。

かつて崖っぷちに立たされたアサヒビールを大胆不敵な「アサヒスーパードライ作戦」の総指揮官として見事に立て直して見せた知将。

今月の良い話 アニマル浜口さん

僕は気合ということ、教育者・森信三先生の『修身教授録』から教わりました。この本に出合ったのはボディビルジムの開きながらプロレスに復帰して間もなく、試合中に大怪我をして再びリングを降りなくてはならなくなった最悪の態の時でした。

この本の中にある、
「二度とない人生、いかに生きるかという、生涯の根本方向を洞察する見識、並びにそれを実現する上に生ずる一切の困難に打ち勝つ大決心を打ち立てる覚悟がなくてはならない」という一節に救われたんです。この言葉に出合った時の衝撃はいまも忘れません。

二度とない人生をいかに生きるかを考えた時、その覚悟を自分なりに表現するのに思いついたのが「気合だ！ 燃えろ！」という言葉だったわけです。

「一切の困難」とは何か。そのことについてもずっと考えました。

病気、怪我、挫折、失敗、抵抗、
障害、摩擦、重圧、衝突、ぶつかり、
中傷、批判、屈辱、侮辱、差別、
反対、針のむしろ、家族の不幸、
アクシデント、足の引っ張り合い、
脅かし、動揺、動転、パニックです。



何かが起きてからでは遅い。僕はこれら24の言葉を日々唱えながら、直面するそれぞれの問題に置き換えて、どう乗り越えるかを常に考えているんです。

浜口道場の道場訓の冒頭には
「人間どこまで強くなるか、人間どこまで錬磨修養なるか」とあります。

強さと錬磨修養、この2つが車の両輪となって人生を歩いていかななくてはならないというのが僕の思いなんですね。

僕は無学なものだから、人生の指針になる言葉を求め続けたんです。森先生や安岡正篤先生の本、中国古典にはいろいろなことを教わり、それで随分変わることができました。自分がギリギリの状態に立たされた時に、言葉によってどれだけ励まされたか分かりません。

僕の道場に来ていただくと分かりますが、壁や天井には、
「思い上がるな！ 謙虚さを忘れるな」

「運命は変わる、変えられる」など自分を鼓舞する言葉が隙間もないくらい書き込まれています。

その中で特に挙げるとしたら
「感謝、発奮、謙虚」 この3つが僕の座右の銘です。

【記事提供 致知出版社】

事件ファイル

器物損壊事案

- 1 日時 平成 22 年 3 月 1 日(月) 16 時 23 分
- 2 場所 東京都葛飾区
- 3 内容 車両接触による器物損壊事故



4 詳細

マンションへ用事で来ていた電気業者の方が、車両を発進させる際少しバックしたところ、左側にある照明塔に気づかず接触。支柱および照明灯部分を破損させたもの。

本人は気がつかなかったのか、そのまま立ち去ってしまった。

防犯カメラ映像を閲覧再生したところ、車両接触による損壊の事実確認ができ、警察立会いの下、運転手の方へ修理を依頼することとなった。

5 静止画説明

- ① 左側写真 車両が照明塔に接触した際、ブレーキを強く踏んでいる様子。
- ② 右側写真 照明塔手前に照明部分が落下している様子が確認できる。

プロ太の小話集 NO 24

女が美術館を訪れた。彼女は何度もガイドに質問する。

- 「この絵はルノアールですか？」 → 「いえ、奥様。それはモネです」
「これは、マネ？」 → 「いえ、奥様。これもモネです」
「あれはユトリロでしょ」 → 「いえ、奥様。ロートレックです」
「これは間違いなし！ピカソだわ」 → 「いえ、奥様。それは鏡です・・・」

今月の K-PURO ニュースいかがでしたか？

日本人は豊かさを手に入れた代償に道德心を忘れ去ってしまったと言われます。

自分さえ、自分の家族さえ、自分の会社さえ良ければいいという風潮から学校でのモンスターペアレンツや食品偽装、粉飾決算、業務上横領等々さまざまな利己主義が招く問題が取りざたされています。



戦後、日本は素晴らしい経済発展を成し得てきましたが、成熟期を過ぎ衰退期に入っている現在。

今ここで一番重要なことは規模の拡大だけではなく、原点に立ち返り日本人が忘却してしまった道德心を個人や企業が取り戻す転換期にきているのだと思います。

ケイプロでは、道德経済を取り入れた体温のある会社を目指し、お客様や取引先に愛され、社会のお役に立てる企業であり続けるため、常に襟を正し、品性を持って行動して参ります。

注：プロ太とは、写真のK-PURO番犬です。(体長 10メートル・体重 1トン・無敵無敗)